

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

小宮 健（東京工業大学 情報理工学院 助教）

2. 課題名

分子ロボット技術の社会実装に関する RRI コミュニケーション実践の企画調査

3. 実施期間

令和2（2020）年9月1日～令和3（2021）年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、分子ロボティクス環境・農業分野での野外活用を中心的な事例として、研究開発当初から技術開発を行う研究者・コミュニティ自らが ELSI/RRI の推進主体となる、地域との対話と技術活用のための指針づくり、持続的な科学コミュニケーション実践の場づくりのための体制構築、研究ロードマップの作成など、研究開発設計の具体化を目標として実施されたものである。当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、前身の研究開発成果からの発展性や顕在化した課題をとりまとめた上で、代表者が提案する「研究者の自治」の研究構想化や、技術領域・分野を超えた論点の検討、などの点の強化を期待した。

企画調査の結果、前身の研究開発プロジェクト（JST-RISTEX 人と情報のエコシステム領域「分子ロボット ELSI 研究とリアルタイム技術アセスメント研究の共創」（研究代表者：小長谷明彦 恵泉女学園大学））の成果やそこで培ってきたネットワークを十二分に活かし、分子ロボティクス技術の野外活用を中心とした対話実践の準備と試行、研究コミュニティにおける ELSI 検討の応答と課題の抽出など、着実に推進されており、目標は概ね達成されたと評価する。「研究者の自治」の在り方を模索する一環として、分子ロボティクスの研究コミュニティの中における継続的な対話を行っていくものと思われるが、RRI の観点からこの動態分析は重要であり、どのように観察・分析し言説化していくのか、研究開発構想の中で具体的に設計されることが望ましい。また、分子ロボティクスの分野を中軸に据えつつ、さらに技術領域・分野を超えた ELSI/RRI の論点の検討・普遍化などに挑戦していただくことも期待する。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB プロデューサー

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士／慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職はすべて 2021 年 3 月末時点)